

山口県立 総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center



Contents

vol. **38**
2019.11

- 01 院長補佐あいさつ
改革の推進者として
受賞報告
へき地医療貢献者表彰を受賞しました
- 02 部署だより 薬剤部の紹介
血液浄化療法センター開設
- 05 看護部通信
危険性が高い感染症の発生に備えて
- 06 地域医療連携ニュース
がん相談支援センターのご紹介
アピアランスケア推進事業助成金のご案内
院長だより
- 07 インフォメーション
2019年度県民公開講座開催予定
やまぐち医療最前線 放送予定
きららサロン・きららサロンミニ講座のご紹介
きららサロン10周年記念講演会 編集後記

別紙 外来診察担当医表



改革の推進者として



外科
須藤 隆一郎

院長補佐の役割は、院長、副院長と共に病院運営について協議し改革を進めていく事です。この中で本年度、私が主に担当すること

になったのは、手術室の運用を見直し効率化することです。手術は病院における疾患治療の柱の一つですが、手術件数の増加に伴い医師、看護師などの時間外労働の増加、手術待機期間の延長など、解決すべき課題が多くあります。手術室の運営をスムーズに行うため、麻酔科や外科系の各科、手術室だけでなく病院全体で調整し、より効果的、効率的な手術室の運営を目指したいと思います。これにより、ご紹介いただいた患者さんの手術の待ち時間を少しでも短くし、患者さんのストレスの軽減、スムーズな連携を目指したいと思っておりますので、今後ともご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

院長補佐あいさつ



循環器内科
池田 安宏

2013年4月に循環器内科部長として赴任し、はや6年が経ちました。2019年4月から、内科系院長補佐を拝命し、「救急患者受け

入れ体制のシステム強化」、「院内医療安全体制の充実」などの新たな課題をいただいております。循環器内科医としては、心不全患者の爆発的増加に対応するため、2019年1月から「心不全地域連携パス」を立ち上げました。普段からご協力をいただいている先生方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。院長補佐としては、病院が抱える課題に真摯に向き合い、微力ながらひとつひとつ解決に向け取り組んでまいり所存です。これからもご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

部署だより From the department

薬剤部の紹介

薬剤部長 白野 陽正

当院の薬剤部では30名の薬剤師が、患者さんを中心としたより安全で適切な薬物療法が行われるよう業務にあたっています。調剤業務はもとより、市販されていない薬を病院内でつくる製剤業務、中心静脈栄養等の無菌調製業務、医師の注射処方箋に基づき注射薬を1回分ずつ調剤する注射調剤業務、その他以下の業務も行っています。



外来化学療法室での業務

外来で抗がん剤を点滴する外来化学療法室に、薬剤師を配置しています。レジメン(抗がん剤治療の計画書)チェック、抗がん剤の調製、抗がん剤治療の説明や副作用の確認、医師への処方提案などを行っています。

病棟薬剤業務

全ての病棟に薬剤師を配置しています。服薬指導に限らず、カンファレンスへの参加、持参薬の確認、処方提案、投与量・注射薬配合変化・薬物相互作用の確認を行い、薬物治療を全面的に支援しています。

チーム医療

院内感染対策チームでは、薬剤師は感染の発生を監視し、抗生物質の処方提案、消毒薬使用による院内感染防止に努めています。また、栄養サポートチームでは、薬剤師は薬学的な側面からもサポートしています。

治験支援業務

国より製造販売承認を得るために行われる新薬の臨床試験を行う業務です。薬剤師は、専門的な立場から治験責任医師の業務を支援すること、治験薬を適正に保管管理すること、治験の計画書に従って治験薬が適正に投与されているか確認することなどを行っています。



当院職員が

「へき地医療貢献者表彰」を受賞!

この度、へき地医療支援センターの岡村宏部長が「へき地医療貢献者表彰」を受賞しました。「へき地医療貢献者表彰」とは、へき地等の医療に恵まれない地域における医療確保に献身的に尽くした、自治体立の病院又は診療所に勤務する医師が表彰されるものです。岡村部長は、平成3年から美和町立美和病院(現・岩国市)でへき地勤務を開始し、柳井市立平郡診療所(離島)や萩市国保福川診療所(山間部)での勤務などを含め、へき地医療に通算21年従事したことが評価されました。



へき地医療支援センター 岡村 宏

特集 血液浄化療法センター開設



新たに透析を導入する患者さん、合併症状を有する透析患者さんや、高齢化に伴い重症化する透析患者さんなど、多様化するニーズにお応えするため、人工透析室を拡大移転し、血液浄化療法センターを10月1日に開設しました。今号では完成したばかりの血液浄化療法センターとここに携わるスタッフをご紹介します。

Special feature

Blood purification therapy center opened.



DIALYSIS 透析

1階から3階に移転し、明るく開放的にさらに感染透析室(個室)2床も設置。安全で高品質な透析治療を提供します!

スタッフ挨拶



センター長
山本 光孝 (泌尿器科診療部長)

この度、センター長に就任した泌尿器科の山本です。1998年に開設したこれまでの人工透析室は透析病床10床(個室なし)でしたが、移転を機に個室2床を含む15床となり、on-line HDF可能施設となりました。従来の血液透析と比べ、on-line HDFは中・大

分子量物質の除去効率が高くなり、透析低血圧(透析困難症)、透析皮膚掻痒、腎性貧血、透析アミロイド症やいらいら感、不眠などの不定愁訴などの改善に有用とされています。また、各部署に分散していた血漿交換、血球吸着療法、血漿吸着療法などをセンター内個室で行う事が可能となりました。

これまで培った知識と経験を活かし、地域の皆さまから信頼される血液浄化療法センターとなるよう運営してまいります。



副センター長
池上 直慶 (腎臓内科診療部長)

末期腎不全に対する血液透析療法は、より効率の高い血液浄化を行うこと、腎不全の様々な合併症へ対応していくことが重要です。そのため患者さんの流動的な病態に対し多岐にわたる診療を常に進め続けることが不可欠となります。

当院の血液浄化療法センターでは腎臓内科医として泌尿器科の先生方と密に連携を取り、急性・慢性腎不全など血液浄化療法が必要な患者さんへ高品質な医療を提供できるよう、看護師・臨床工学技士の方々を含む多職種との協力のもと、包括的医療を進めていけるよう尽力してまいります。



看護部主任
松村 千賀子

透析患者さんは、カリウムや水分・塩分などの食事制限、シャントの管理、適度な運動や十分な睡眠など、日常生活で制限されていることが多々あります。しかし、患者さん本人やご家族だけでそれを良好にコントロールすることは容易なことではありません。

私たち看護師は、他の職種に比べ最も長い時間を患者さんと共に過ごします。その時間の中で、お伺いした日常生活の悩みや不安をチーム全体で共有し、患者さんに安心して透析治療を受けて頂ける看護の実践を心掛けています。患者さんに寄り添い自己管理をサポートし、より安全な透析治療の提供を目指しています。



臨床工学部主任
住田 直樹

臨床工学技士は、医療機器のエキスパートです。血液浄化療法は複雑な機器や特殊な物品を使用するため、我々が深く関わることで、安全で高品質の医療を提供しています。

具体的には、機器の操作やメンテナンス、物品の準備・管理、透析用水の水質管理等です。医師や看護師と協力して、患者さんにとって最適な透析条件や使用する物品を常に考えています。機器の操作や点検だけでなく、看護師と同様に、患者さんに透析用の針を刺したり、ベッドや車いすに移乗したり、時には患者さんの話し相手にもなります。常に患者さん目線での治療への参加を心がけています。

看護部 通信+

Nursing department communication

危険性が高い 感染症の発生に備えて

感染対策室 看護師長 田中智子



山口県立総合医療センターは、県内唯一の第一種感染症指定医療機関です。エボラ出血熱や高病原性鳥インフルエンザなど危険性が高い感染症が発生した際には、感染症センターで患者さんを受け入れます。当センターには、患者さんの治療はもとより、地域への感染拡大を防ぐ役割があるからです。

しかし、これらの感染症は国内で発生したことはありません。このため、職員が速やかな受け入れや診療を円滑に行うために、第一種感染症指定医療機関になった2004年以降、毎年訓練を実施しています。今年は10月24日に実施しました。

訓練には、患者さんに直接対応する医師や看護師はもちろんのこと、事務職員、臨床検査技師、薬剤師、放射線技師、臨床工学技士、管理栄養士など各部門の職員が参加し、患者さんを受け入れた際に必要な手順を一つ一つ検証しながら行っています。

これらのかわめて稀な感染症を早期発見し即座に対応することが、国内の感染拡大防止に繋がります。おしるも2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、国内に危険性が高い感染症が持ち込まれる可能性もゼロではありません。来院される皆さまには手指衛生や咳エチケットの実施、外来診察時には海外渡航歴や動物・節足動物との接触の有無等の確認についてご協力をお願いしています。

山口県内で実際に発生した場合には、訓練での経験を生かし、慌てることなく患者さんを受け入れ、早期に良質かつ適切な医療を提供していきたいと思っております。



地域医療連携ニュース

がん相談支援センターのご紹介

がんと診断されたとき、多くの患者さんやご家族は衝撃を受け、気持ちが動揺します。こうした心の動きは、多くの方に起こる自然な反応です。つらい気持ちを自分の中に閉じ込めず、身近な人に話すことで、気持ちが少し軽くなることもあります。身近な人に話すことが難しいときには、ぜひ「がん相談支援センター」をご利用ください。「がん相談支援センター」では、お話を聞きながら一緒に状況を整理し、患者さんにあった病気との向き合い方を考えていくお手伝いをします。



ご相談内容 ※当院に受診されていなくても相談はお受けしています。

がんに関する相談

セカンドオピニオンに関すること

医療機関に関する情報等提供

仕事と治療の両立に関すること

緩和ケアに関すること

がん治療に伴う生殖機能の影響や温存に関する相談等

アピアランスケア推進事業助成金のご案内

山口県と防府市は、がん治療に伴う外見(アピアランス)の変化に対するケアを通じ、社会参加を支援し、がん患者のQOL向上を図るため、がん治療により脱毛した場合のウィッグ等の購入費を助成する制度を設けています(2019年4月以降購入のもの)。助成額は購入費の2分の1で、3万円を上限とするとされています。

詳しくは、山口県健康福祉部医療政策課、または防府市のホームページをご覧ください。がん相談支援センターにお問い合わせください。

院長だより

地域の皆さまに選ばれる総合病院になること。そのための一つの手段として、今秋は5年ぶりの病院機能評価を受けました。日頃の病院業務内容の質が問われます。受験勉強と同じで日頃からコツコツと質的改善に取り組んでいけば、特段の努力をせずとも受審も上手く行くのでしょうか、なかなか理想通りにはいきません。これを機に、病院機能の拡充推進に加え、働きやすい環境づくりと人材育成に、なお一層の緊張感をもってあたりたいと思っております。



武藤 正彦



Information



2019年度県民公開講座開催予定表

受講料無料
(事前申込み不要)

日時	テーマ	講師	場所
12月 7日(土)	膝痛	整形外科 椎木 栄一 医師	YIC Studio(新山口駅前) 2階講堂
2月 1日(土)	消化器がん	外 科 須藤 隆一郎 医師	防府市アスピラート 3階音楽ホール

※講演時間14:00~15:00 [開場13:00] (各回共通)



やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

放送日時	放送内容	出演
12月 7日(土) 18:55~19:00	ほくろ癌(メラノーマ)に対する新しい治療	皮膚科 山田 隆弘 医師
12月11日(水) 16:50~16:56		
1月 4日(土) 18:55~19:00※	山口県がん・生殖医療ネットワーク YOF-net設立	産婦人科 中村 康彦 医師
1月 8日(水) 16:50~16:56		
2月 1日(土) 18:55~19:00	最新の人工膝関節について	整形外科 椎木 栄一 医師
2月 5日(水) 16:50~16:56		

※年始特別番組編成により変更となる可能性があります。

◎きららサロン

がん患者さん、ご家族のためのサロンです。きららサロンは、9月7日で10周年を迎えました。この10年間で4,689人の方が利用してくださいました。当院に通院中でなくても利用可能ですのでお気軽に足を運んでください。

日時: 毎週火・金曜日 10:30~15:00
場所: 当院外来棟2階 会議室前コーナー

きららサロン10周年記念講演

◎緩和ケア研修会

テーマ 「がんとともに生きるための知恵」

講師/ 虎の門病院 臨床腫瘍科 部長 高野 利実 先生
日時: 11月16日(土) 14:00~16:00
対象: 一般の方、医療、介護、福祉関係者
場所: 当院外来棟2階 大会議室

◎きららサロンミニ講座 がんと向き合う日々のためのミニ講座

テーマ 「リンパ浮腫について」

日時: 11月12日(火) 13:00~14:00

講師/ 緩和ケア認定看護師 小川 佐知子

場所: 当院外来棟2階 第1会議室

○編集後記

今号で特集した「血液浄化療法センター」からは、外来棟の広い屋上と県内最大の防府平野、その先には穏やかな瀬戸内の海が見渡せます。一番近くに見える外来棟の屋上を緑化できたら透析に来られる患者さんにも喜んでいただけるのでは?と思う、今日この頃です。(企画調整室 H.A)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



地方独立行政法人
山口県立病院機構

山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymgph.jp/>